

# 6 「健康横浜21」全体の評価と課題

## 1 目標の設定について

### 〈評価〉

- 網羅的になりがちな健康づくりの取組ですが、取組テーマを「生活習慣病予防」に設定し、重点取組分野を4つに絞ったことで、取組の方向性が明確になり、効果的なアプローチがしやすくなりました。しかし、「健康でありたいと思う市民を増やす」という目的と「生活習慣病予防」という取組テーマとのつながりが見えにくく、計画の進むべき方向が捉えにくい点がありました。
- また、「健康づくり」という言葉の定義が明確にされていなかったため、様々な捉え方が生じ、目標の共有に時間がかかることもありました。
- 人口の増加、少子高齢化の進展、経済情勢の変化等の社会背景の変化を捉えながら計画を進めることの重要性は認識しながら、目標とのつながりが明確でないところもありました。

### 〈課題〉

- 次期計画では、目指すべき姿、目標の設定、具体的施策等が一連のプロセスとして見えるように、全体像を描きながら目標設定をすることが重要です。
- その際は、言葉の定義を明確にし、全体で共有しやすいよう工夫することが必要です。
- また、社会背景や市民の意識を踏まえて、現状把握、課題整理、目標設定を行い、市民の変化を総合的に捉えられるように、市民の意識・知識・行動の変化を踏まえた目標設定をすることが重要です。

## 2 取組の手法について

### 〈評価〉

- 19年度までは老人保健法に基づく基本健康診査を行っており、基本健康診査の結果に応じて、保健師や栄養士による個別健康相談や生活習慣病予防教室等を統一的な手法で行ってきました。その後、20年度の医療制度改革に伴い、市町村には全市民を対象としたポピュレーションアプローチをより一層推

進することが求められるようになりました。そこで、多くの人に効果的な取組を行うため、生活の場であるスーパーマーケット・電車を活用した啓発や、小さな子どもを持つ養育者が子どもと一緒に取組める運動教室など、対象に合わせた場所や手法を工夫する取組にシフトし、対象に合わせた効果的な取組を行うことができました。

- 一方で、健康に関する知識や健康行動への意欲があるものの、行動へ移せない市民に対するアプローチは不十分でした。

### 〈課題〉

- 個人の行動変容を促すためには、これまでの分野別の取組にとらわれず、健康データや価値観を踏まえて対象をセグメント化し、どういう層がどのような心理で何を求めているのかを見極め、包括的に取組んでいくことが重要です。
- また、意識や知識が行動に結びつくような仕掛けや工夫を行っていくことが必要です。

## 3 取組の推進体制について

### 〈評価〉

- 地域・学校・職場等、市民をとりまく様々な関係団体が、情報交換や協議を行うことで、お互いの機能や役割を知るきっかけとなり、新たな連携による市民の健康づくりの推進につながりました。
- 一方で、様々な機関が取組を推進してきましたが、各団体の目標や役割を計画に位置付けなかったため、各団体の取組の見えにくさがありました。

### 〈課題〉

- 計画を効果的に進めていくためには、関係団体の目標や役割を明確にし、連携しながら進める体制づくりが必要です。今後は、それぞれの役割を明確にし、関係団体も取組目標を定めて、取組んでいくことが重要です。
- その上で、各団体の取組について進捗状況の確認と情報交換を行い、計画の推進に取組んでいくことが必要です。

## 4 取組の成果について

### 〈評価〉

- 「最終評価・次期計画検討ワーキング」では、意識・知識の変化を含めて、より幅広く全体像を捉えるため、50項目の指標を設定し、評価を行いました。その結果、分野別にみると半数以上に改善・増加が見られました。
- この10年で、高齢化の進展に加え、経済情勢は厳しさを増し、市民の心配や不安が増加してきました。そのような社会背景にあっても、市民の健康に関する意識や関心・行動が高まってきたということは、様々な要因が想定されますが、「健康横浜21」のこれまでの取組の成果でもありと考えられます。
- 重点取組分野のうち、評価指標なしの3項目を除く10指標でみると、2割が改善し、7割は変化が見られず、悪化が1割でした。これは、目標達成の指標として、意識や知識ではなく行動変容のみの目標に絞ったこと、さらに、評価指標の項目を13項目に絞ったことにより、市民の健康に関する変化を限定的にしか捉えられず、全体の変化が見えにくい指標の設定となっていたためと考えられます。
- また、個人の変化を中心に指標を設定したため、地域で活動している健康グループ数の変化等、社会資源の変化について見えにくさがありました。

### 〈課題〉

- 次期計画では、意識や知識が行動に結びつき習慣化

### ■分野別評価結果一覧

取組指標	項目数	取組指標	項目数	割合
食習慣の改善		メタボリックシンドローム対策の推進		
改善・増加	3	改善・増加	3	
変化なし	5	変化なし	2	
悪化	0	悪化	0	
身体的活動・運動の定着		多様な健康づくりの推進		
改善・増加	6	改善・増加	7	
変化なし	4	変化なし	10	
悪化	1	悪化	0	
禁煙・分煙の推進		合計	47	100.0%
改善・増加	5	改善・増加	24	51.1%
変化なし	1	変化なし	22	46.8%
悪化	0	悪化	1	2.1%

することで、身体の変化に結びつくような計画の策定を行うとともに、意識・知識・行動・身体の変化等、市民の変化が総合的に見られるような指標の設定と社会資源の変化を見られるような指標の設定を行うことが必要です。

- また、設定した指標を定期的に評価できるよう、継続的な調査が必要です。

### ■意識・知識等別評価結果一覧

評 価			改善率
意識・知識の変化	改善・増加	4	57.1%
	変化なし	3	
	悪化	0	
行動・身体の変化	改善・増加	20	50.0%
	変化なし	19	
	悪化	1	





## 資料編

- 取組事例の紹介 **37**
- 「健康横浜21推進会議」委員名簿 **58**
- 「健康横浜21」最終評価・次期計画検討ワーキング名簿
- 評価指標一覧 **59**